

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）

各務原市地域公共交通会議

平成25年11月25日設置

フィーダー系統 平成28年6月13日 確保維持計画策定
平成29年2月14日 計画変更

□各務原市の地域特性、背景

- ・市域は87.81km²で、市域の多くが平地
- ・人口は148,591人（平成29年11月1日時点）で横ばい
- ・高齢者の割合は増加傾向にあり、平成26年には25%超

□当市形成計画の目標・目標達成に向けた手法

- ・市内に存在する多様な交通手段が連携した環境にやさしい公共交通ネットワークを形成し、市民の移動ニーズに応じたサービス提供を目指す

□各務原市における公共交通について

- ・鉄道、路線バス、民間タクシーに加え、コミュニティバス、デマンドタクシーが運行
- ・平成27年8月に網計画を策定。同年10月に各務原ふれあいバス（以下、ふれあいバス）再編



鉄道 : 名鉄犬山線・各務原線（12駅）、JR高山本線（4駅）
路線バス : 岐阜バス12系統、名鉄バス2系統
民間タクシー : 5事業者の営業所が存在、市全域を網羅
コミュニティバス等 : 各務原ふれあいバス（7路線）、各務原ふれあいタクシー（2地区）



□ 当市網計画で示す評価指標

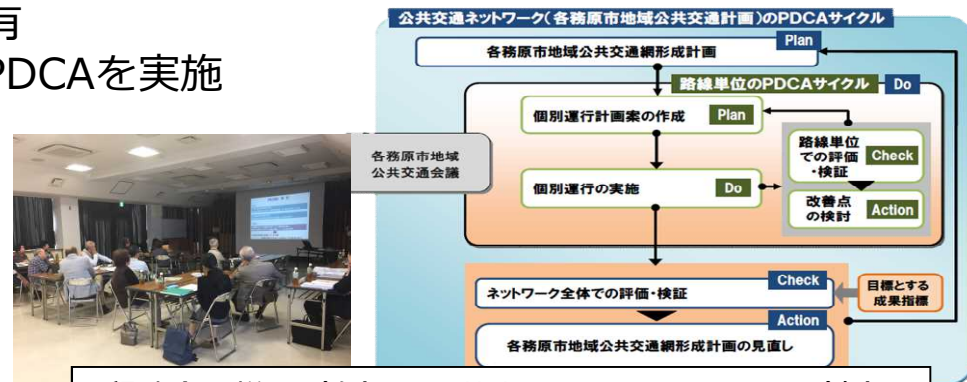
内容	現状（計画策定時）	目標指数
鉄道、路線バスの利用者数 市内鉄道駅乗降者数 路線バス利用者数	14,505千人（H24年） 475千人（H24年）	現状維持 15,519千人（H28年時点） 368千人（H29年時点）
日頃バスを利用する人の割合	27%（H25年）	32%
ふれあいバスの年間利用者数	16万人（H25年）	20万人以上
公共交通利用の不満割合	26%（H25年）	現状未満

□ 生活交通確保維持改善計画における評価指標

- ふれあいバス川島線：1便あたりの乗車人数昨年以上（8.3人/便 以上）
- ふれあいバス蘇原線：乗車人数5人／1便以上、25,500人／年 以上）
- ふれあいバス東西線：乗車人数5人／1便以上、10,000人／年 以上）

□ 目標達成に向けた手法及び自己評価について

- ・ 目指す姿を地域住民、交通事業者、行政で共有
- ・ 三位一体で公共交通の維持・活性化に向けてPDCAを実施
- ・ 数値による評価に加え、地域懇談会等の意見、要望等から自己評価を実施
地域懇談会等では、調査事業の結果や改正案を提案の上、意見交換を実施。
- ・ 本自己評価は、平成30年1月12日の公共交通会議にて協議



懇談会の様子（左）、公共交通のPDCAサイクル（右）

調査事業

昨年度
全体調査を実施

利用が少ない便の
乗降調査

- ①東西線 17:30発
18:39発
- ②朝夕便 8:13発
9:19発

分析

- ①夕方の帰路は別の交通利用が多い
- ②当該便の病院利用者が想定より少ない

改正案

- ・利用が増えるようであれば、当該便継続
- ・利用が伸びなければ当該便を廃止。ニーズの高い路線へ車両を移し替えて、そちらを拡充

意見交換

懇談会の開催

調査結果の報告、改正案の提案
意見交換

計97人の市民が参加（12会場13回）
交通事業者も可能な範囲で参加

ふれあいバス車内への意見箱設置



- ・運賃箱付近に設置
- ・様式、筆記具を設置

24件の意見書が投函
(7/7~11/16時点)

交通事業者との定例会（毎月）
公共交通会議

意見、要望を共有、協議し、適宜対応
今後の改正に向けて意見を整理、集約

利用促進・利便性向上

乗り方教室の開催

高校生向け（合格発表日）
高齢者向け（介護予防教室）



- ・車両持ち込み
- ・路線バスの時刻表も持参

ふれあいタクシーお試し週間

新顧客の獲得のため無料週間開催

他団体による利用促進（一例）

「発見！！たんけん調査隊」
各務原青年会議所がバスを使った子ども向け市内探検イベントを開催



- ・42人が参加
- ・バスのペーパークラフトを提供

4. 具体的取組みに対する評価

5

- ・ 利用実績及び市民の意見や評価等を踏まえて実施（国庫補助対象路線は**橙色**）

評価指標 A：サービス維持 B：路線継続 C：路線見直しの必要性有

種別	路線	利用者数（人）	乗合率	補助	評価指標	評価
ふれあいバス	鵜沼線	44,178 (+2,591)	8.3 (+0.6)	県補助		A
	那加線	29,293 (+2,801)	8.1 (+0.2)	県補助		A
	稲羽線	33,664 (+1,004)	8.1 (+0.7)	県補助		B
	川島線	25,321 (+749)	8.4 (+0.1)	地域間幹線	8.3人/便以上	B
	蘇原線	49,040 (+8,721)	7.2 (+1.0)	フィーダー	25,500人/年、5.0人/便	A
	東西線	16,156 (+1,159)	6.6 (+0.6)	フィーダー	10,000人/年、6.6人/便	B
	朝夕便	3,472 (+220)	3.6 (+0.2)	県補助		B
ふれあいタクシー	須衛・各務	3,190 (+573)	1.3 (±0.0)	県補助		A
	鵜沼南	1,911 (+175)	1.2 (±0.0)	県補助		A
全体		206,225 (+16,593)	バス：7.6 (+0.9)		200,000人/年、5.0人以上便	A

B評価路線の理由

- ・ 川島線：最終便が早すぎて買い物から帰れないため、要検討（10/24懇談会で指摘）
- ・ 稲羽線：総合病院の開診に合う便（8～9時台）がないため、要検討（10/23懇談会で指摘）
- ・ 東西線・朝夕便：通院（8～9時）及び通学等の帰路（17～18時）を狙った便の利用が少なく、**必要性の判断を地域に問う必要がある**ため（各地での懇談会にて提起）

具体的な取組みに対する評価

- ・ 意見箱の設置や懇談会により、地域や利用者との意見交換を継続、拡大
- ・ ふれあいタクシーお試し週間では、利用増や新規利用者を獲得。ただし、リピーター化が課題
- ・ 福祉部署と連携した利用促進により、ふれあいバスの主な利用者層へ周知

課 題

対 応 方 針

①鉄道や路線バスとの乗り継ぎが合わない（懇談会各会場より）

全ての鉄道駅・停留所、時間、行先（岐阜、名古屋方面等）に合わせることが困難

【対応方法】

- ・鉄道、路線バス事業者と情報交換を実施
- ・どの乗り継ぎ地点を重点化するかを検討

⇒ 次回再編にて参考、反映

②B評価とした稲羽線、川島線の具体的な解決策の検討が必要

川島線：最終便の時間が早すぎる
（「新那加駅北口」14:55発）

稲羽線：総合病院の開診に合う8～9時台の便がない

【対応方法】

- ・H29年度に利用の少ない便の調査を実施
- ・H29年度の懇談会にて結果報告、当該便を止め、他路線への移し替える案を提案
- ・今後の利用動向把握に努める

⇒ 利用動向を見つつ改正実施を検討

③ふれあいタクシーの利便性

仕組みが分からない

予約締切（発車45分前）が早すぎる

予約が手間

【対応方法】

- ・乗り方教室や利用促進の実施、継続
- ・懇談会や地域の方と意見交換

⇒ 利便性の高い体制、仕組みを検討

④福祉部署でも高齢者移動支援が課題

単独部署のみでは

お互いの専門知識、情報不足

解決策の検討が困難

【対応方法】

- ・福祉部署と情報交換を実施
- ・両者の課題や状況、できることを整理

⇒ 連携した取り組みの検討、実施

平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）

各務原市地域公共交通会議

平成25年11月25日設置

フィーダー系統 平成28年6月13日 確保維持計画策定
平成29年2月14日 計画変更

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
ニーズ調査の結果等の結果も踏まえ、より高い利便性の確保を目指すこと。	路線単位の見直しとして、利用の少ない便の見直しを実施し、ニーズの高い路線への再配置案を検討した。	今後の利用状況を見つつ、再配置を実施する等、行政負担を過剰とさせない手法での改善策を引き続き検討していく。
ふれあいタクシーの仕組みが分かりづらいため、ダイヤ設定の必要性等を検討してはいかかがか。	バスとの乗り継ぎ確保のため、現時点ではダイヤ設定の撤廃は行わず、既存の仕組みを基に利便性向上や利用促進の取り組みを展開した。	利用促進の実施や利便性向上のための改正は行いつつ、より分かりやすい仕組みについて交通事業者とも検討を行っていく。
再編により乗り継ぎ利用が発生したことで利用者が伸びたことも考慮して利用実態を把握すること。	様々な層への利用促進を図り、網形成計画で定まる年間利用者数20万人を達成した。	継続的な利用促進に取り組み、さらなる利用者増や維持に努める。
ふれあいタクシーのヘビーユーザー化、乗合率についても考慮すること。	新規顧客の獲得に向けた「ふれあいタクシーお試し週間」を実施した。	年間通しての乗合率は、前年と変化が見られなかったため、リピーター化に繋がるような取り組みを検討する。
地域懇談会では、意見を聞くだけでなく、自分たちのメッセージを持って伝えた方が良い。	今年度の懇談会では、調査結果を踏まえた検討案を説明し、市の考えの提案や意見交換を行った。	今後も行政や交通事業者の考えや取り組みを発信する取り組みを展開していく。

□地域や利用者が意見を出せる環境づくり

懇談会や地域要望による意見交換の場

- ・顔を合わせる意見交換の場
- ・参加者同士でも意見交換、情報交換
- ・行政、事業者の実情や考えも報告、提案

+

利用者がいつでも投函できる意見箱

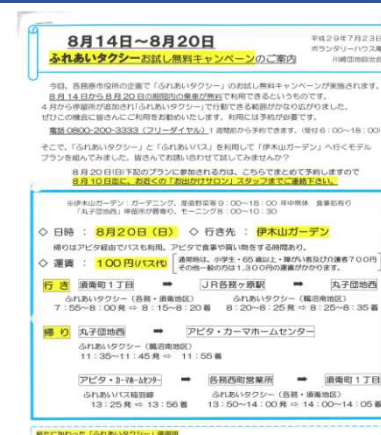
- ・いつでも、匿名でも投函可能
- ・懇談会では言いづらいこと、利用中のちょっとしたことも投函可能

□「地域」×「行政」の利用促進

ふれあいタクシー無料期間（8/14～20）に合わせて、民間介護事業者がふれあいタクシーを乗り継ぐイベントを開催（レジャー、買い物施設巡り）

→ **無料期間の利用者が大幅増、新規顧客5名**

お試し週間の実施結果	お試し期間中	H28年同時期	対前年比
利用者数（人）	165	67	+98
発車回数（回）	80	62	+18
乗合率（人/便）	2.06	1.08	+0.98
新規顧客	5	—	—



イベントのチラシ

□「福祉部署」×「公共交通部署」の取り組み

介護予防事業「らくらく体操ひろば」にてバス乗り方教室を開催、教室参加者への公共交通の利用促進を実施

→ **主な利用者層の高齢者に絞り込んだ利用促進を展開**



福祉センターでの教室の様子

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

平成 年 月 日

協議会名: 各務原市地域公共交通会議

評価対象事業名: 生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価	【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス蘇原線	平成27年10月に再編した新路線で、パターンダイヤを採用。乗降調査からも満足度が一番高い路線であり、維持継続していく。	A	計画どおり事業は適切に実施	A	・利用者も増加傾向で、満足度も高いため、現状以上を目指す。 ・継続的に利用促進を実施する。 ・接続する鉄道駅での乗り継ぎが合わないといった意見があるため、乗り継ぎについては今後検討
岐阜乗合自動車株式会社	ふれあいバス東西線	平成27年10月に再編した新路線で、各地区ごとの路線と異なり、大きく市を東西に伸びる路線。 昨年度の調査を踏まえ、今年度追加調査を実施し、効果的なダイヤを検討中	A	計画どおり事業は適切に実施	B	・利用者も増加傾向である一方、利用者が少ない便が存在。 ・利用の少ない便の改正(廃止)を検討しつつ、現状以上を目指す。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

平成 年 月 日

協議会名:	各務原市地域公共交通会議
-------	--------------

評価対象事業名:	生活交通確保維持改善事業(地域内フィーダー系統確保維持計画)
----------	--------------------------------

地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本市総合計画において“笑顔があふれる元気なまち”を将来都市像として掲げ、全市民、企業、行政が独創的な施策を戦略的に展開することで、人々や産業、地域が心の底から夢が湧くような都市の実現を目指している。</p> <p>公共交通については、総合計画と整合性を保ちつつ、公共交通網形成計画を策定している。</p> <p>形成計画において、鉄道やバスを利用して、皆が健康で、安心かつ快適に暮らせるまちの実現を目指しており、市民、交通事業者、行政が三位一体となり、公共交通ネットワークを育んでいく必要がある。</p>
-----------------------------	---